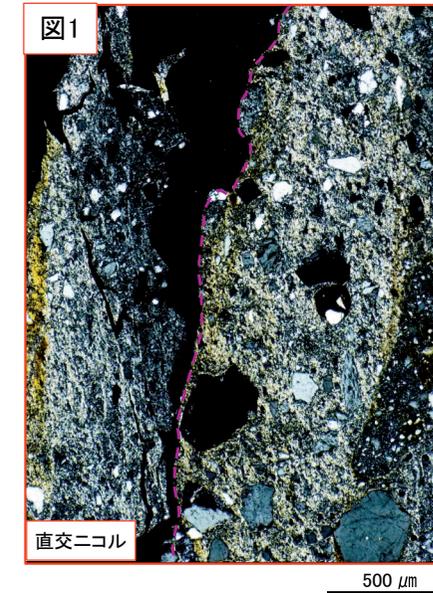
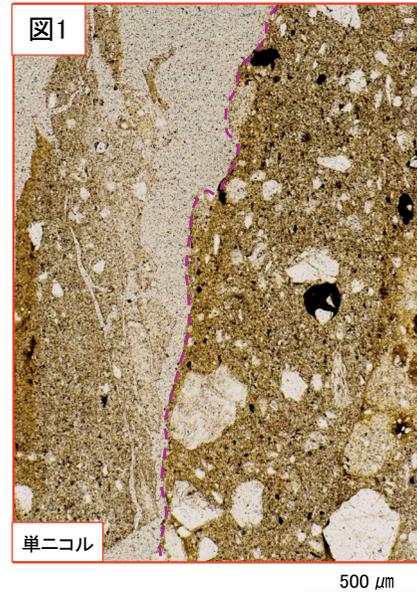
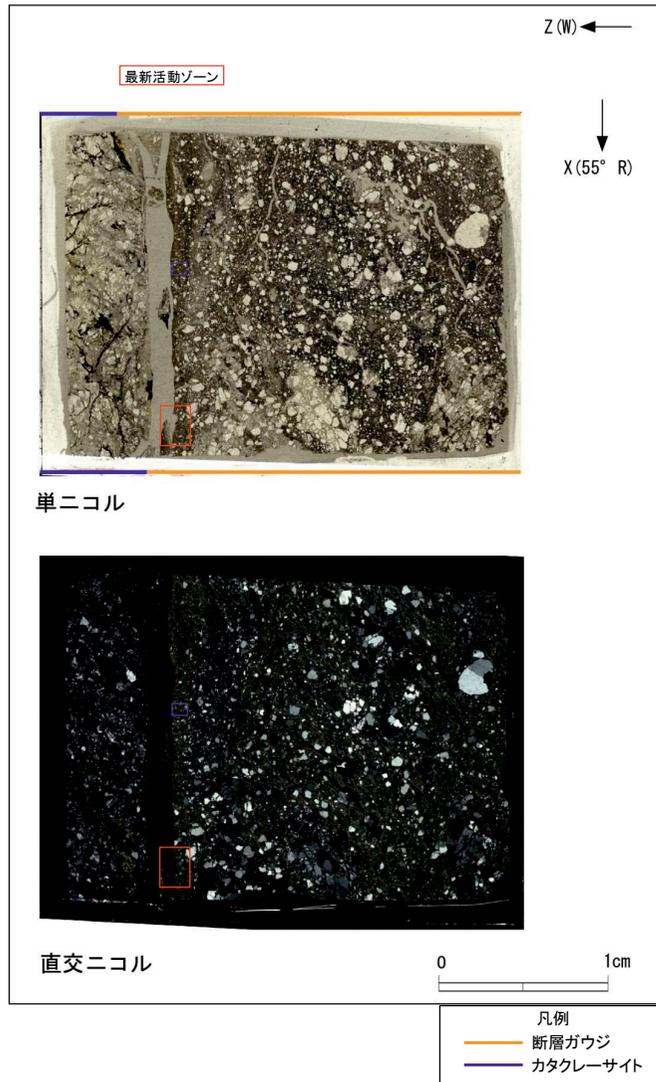
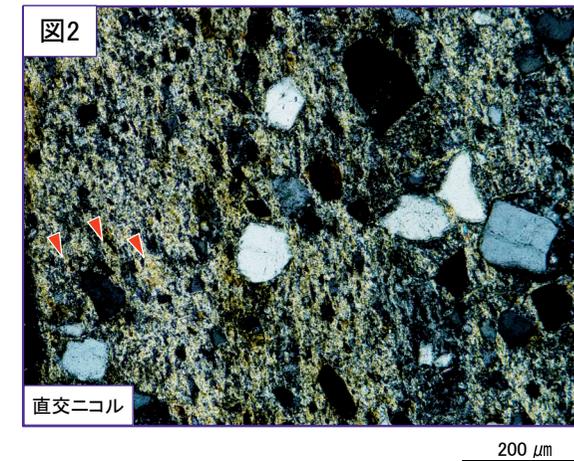
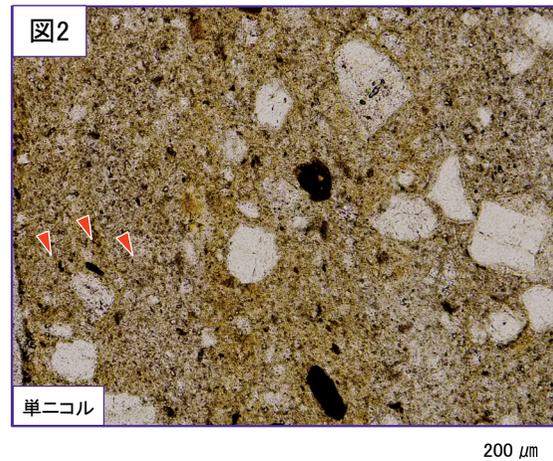


# K断層 破碎部性状 H24-E-1 深度8.41~9.70m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す

## K断層 破碎部性状 H24-E-1 深度8.41～9.70m(断層岩区分の総合評価)

(肉眼観察結果 深度8.44m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、粘土の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面  $\alpha$  に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破碎部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	1.0	有

\* :断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「—」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

# D-1トレンチLカットピット

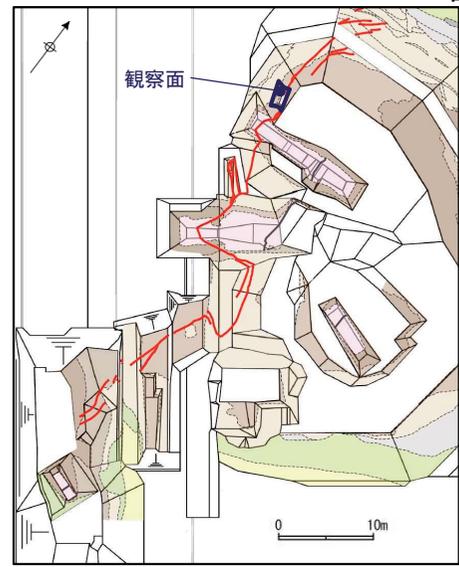
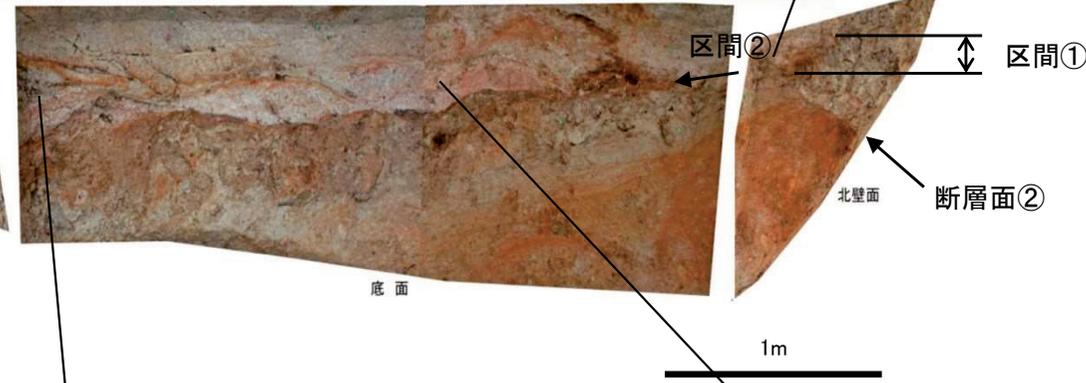
## K断層 破碎部性状 D-1トレンチLカットピット(肉眼観察による断層岩区分(1/2))

・区間①に対応する「Hj」との記載については、シルト質砂状～砂質シルト状を呈するものである。軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

H-1: 変質したカタクレーサイト. Hj  
 ・灰白色(7.5YR8/2)～淡橙色(5YR8/4)  
 ・砂質シルト状. 全体的に軟質である。  
 ・細粒部の分布は局所的である。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は、わずかに認められる。

H-1: 変質したカタクレーサイト. Hj  
 ・灰白色(7.5YR8/2)～淡橙色(5YR8/4)  
 ・砂質シルト状. 全体的に軟質である。  
 ・細粒部の分布は局所的である。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は、わずかに認められる。

Lカットピット写真



調査位置図

H-1: 変質したカタクレーサイト. Hj  
 ・灰白色(7.5YR8/2)～淡橙色(5YR8/4)  
 ・シルト質砂状～砂質シルト状。  
 ・全体的に軟質である。  
 ・細粒部の分布は、局所的である。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は、わずかに認められる。

H-1: 変質したカタクレーサイト. Hj  
 ・灰白色(7.5YR8/2)～淡橙色(5YR8/4)  
 ・砂質シルト状. 全体的に軟質である。  
 ・細粒部の分布は、局所的である。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は、わずかに認められる。

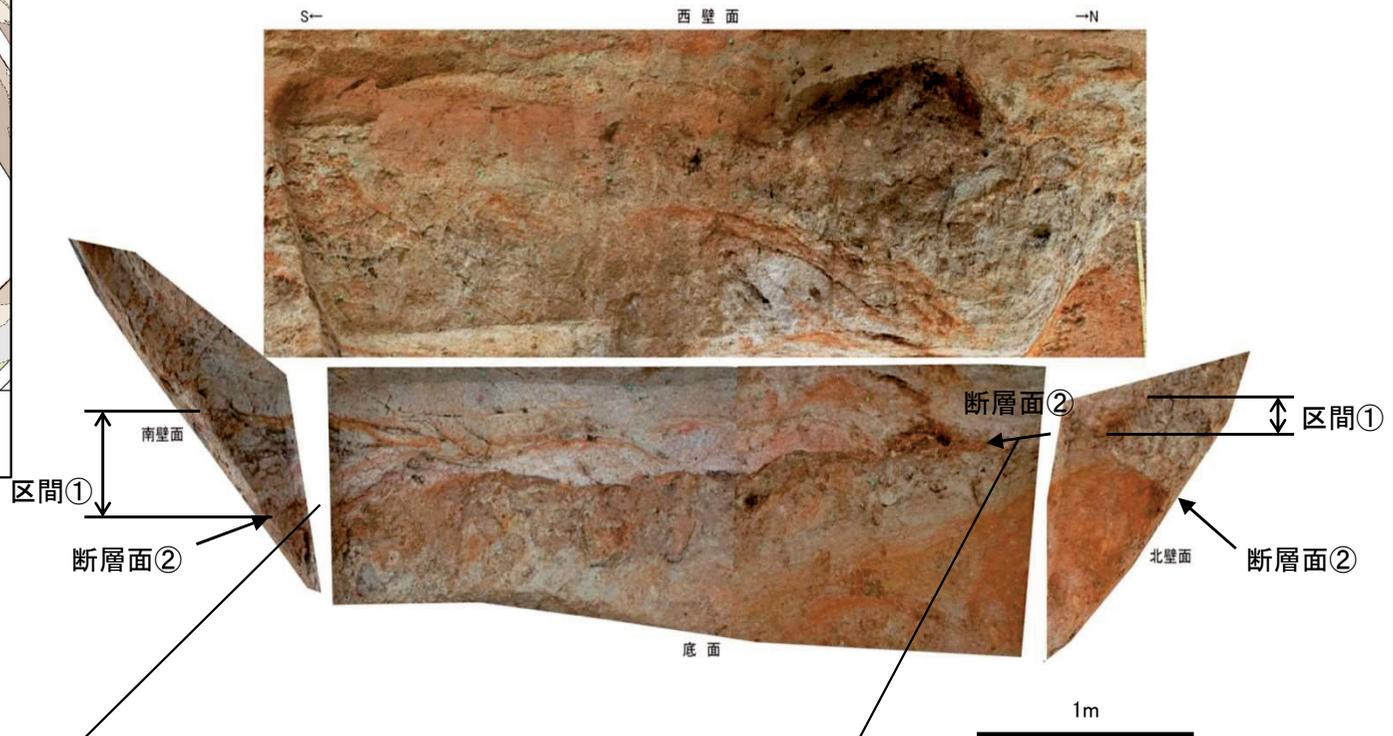
## K断層 破碎部性状 D-1トレンチLカットピット(肉眼観察による断層岩区分(2/2))

・断層面②に対応する「Hc-1」との記載については、粘土状を呈するものである。軟質であり、細粒部はせん断面に沿って断続的に連続して分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。



調査位置図

Lカットピット写真



S-1:せん断面. 淡橙色粘土. 幅1~3mm. Hc-1  
 ・基盤岩と堆積岩の境界に分布する. 細粒部がせん断面に沿って断続的に分布する.  
 ・断層ガウジ.  
 ・細粒部は軟質であり, 原岩組織が認められる岩片を主体とし, 基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない.

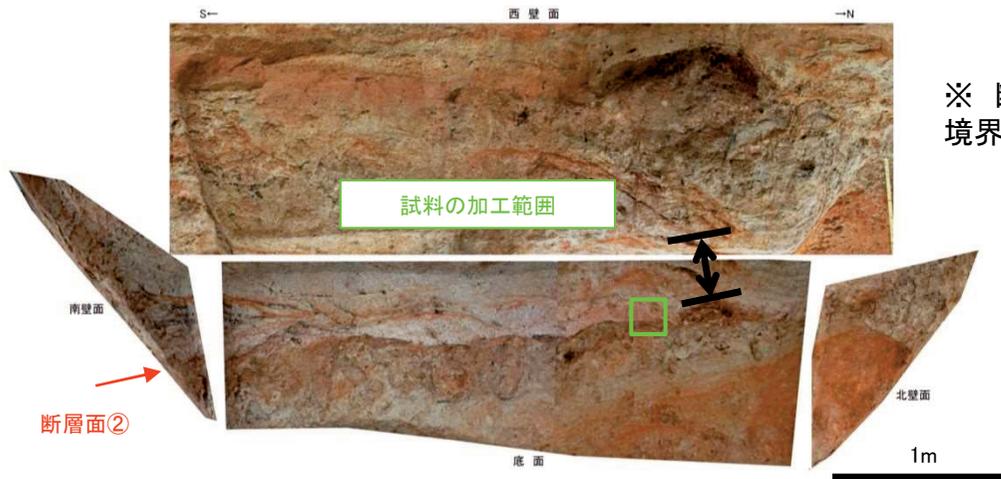
S-1:せん断面. 灰白~褐色粘土. 幅1~3mm. Hc-1  
 ・基盤岩と堆積岩の境界に分布する. 細粒部がせん断面に沿って断続的に分布する. 断層ガウジ.  
 ・細粒部は軟質であり, 原岩組織が認められる岩片を主体とし, 基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない.

# K断層 破碎部性状 D-1トレンチLカットピット(薄片作製位置)

・薄片は断層面②及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

露頭写真

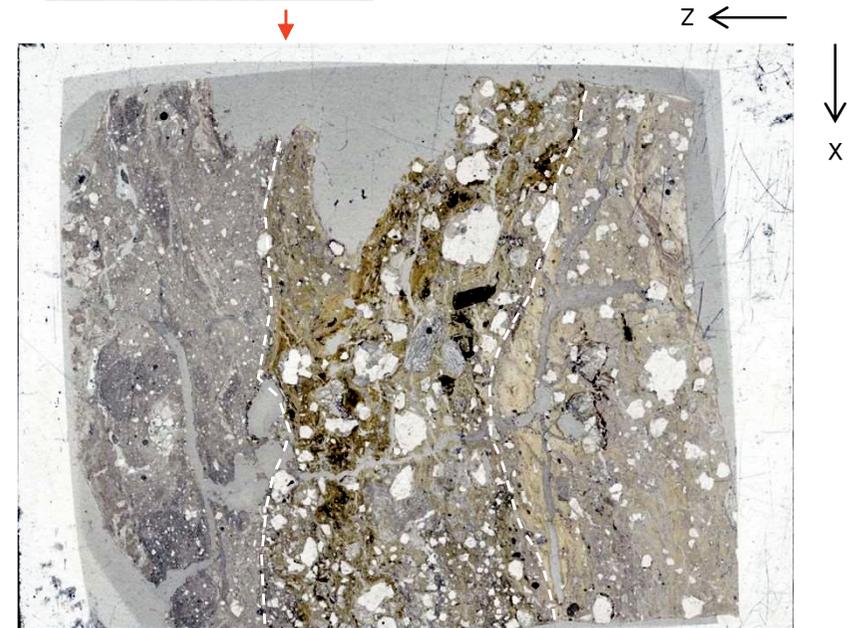
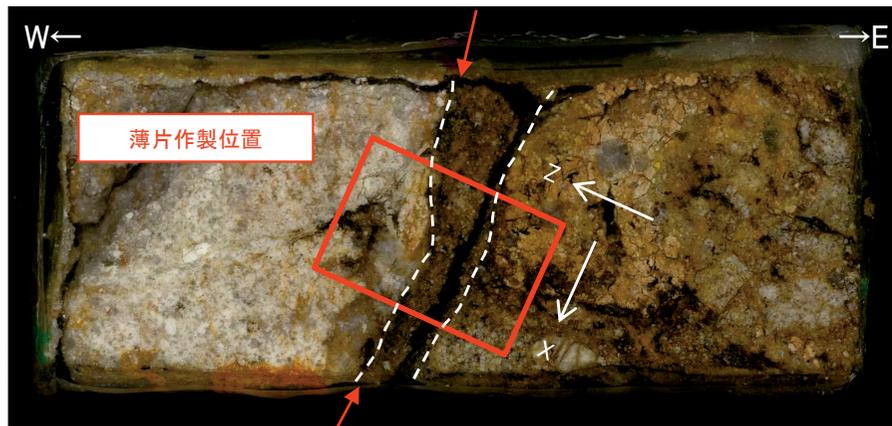
※断層面②は最新活動面



※ 断層ガウジは基盤岩と堆積物との境界付近に分布しており, 幅を計測できない

薄片作製位置写真

薄片全景写真(単ニコル)



X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

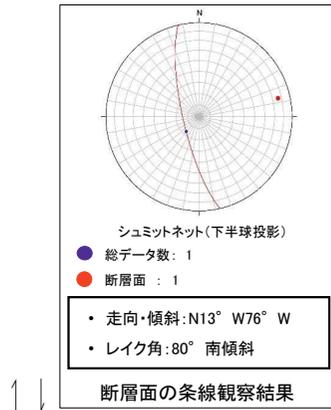
X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例  
 ↓ 断層面  
 ----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※  
 ※: 写真上は白色又は黒色で記載

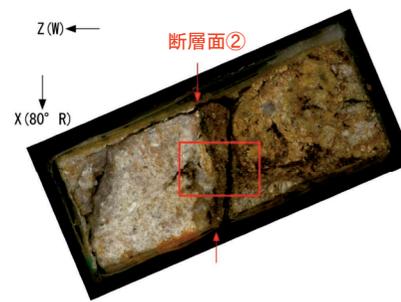
# K断層 破碎部性状 D-1トレンチLカットピット(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・D-1トレンチLカットピットから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部は帯状で直線的である。
- (カタクレーサイト)角ばった堆積物片が多い。

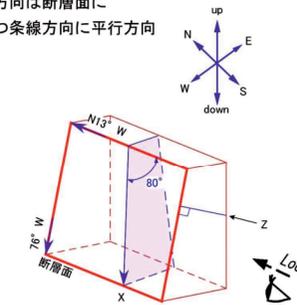
※断層面②は最新活動面



最新活動ゾーン



薄片の作製方向は断層面に  
 直交方向かつ条線方向に平行方向

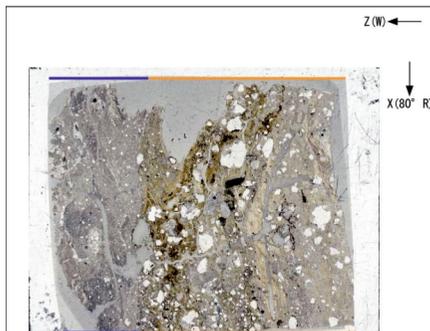


0 10cm

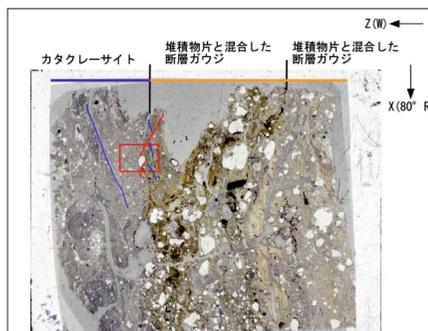
ブロックサンプル

走向・傾斜 N13° W76° W  
 X: 条線方向 (下向きを正とする)

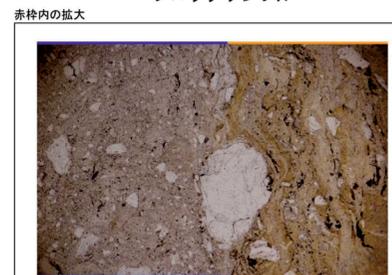
Z: 断層面の法線方向 (上盤側を正とする)



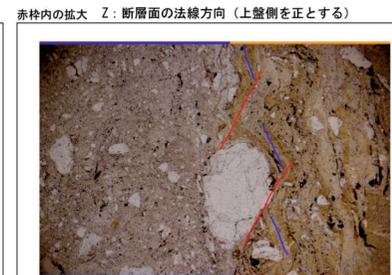
単ニコル



単ニコル



単ニコル

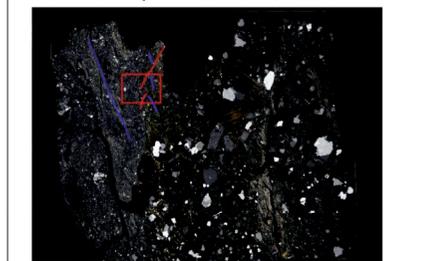


単ニコル



直交ニコル

0 1cm



直交ニコル

0 1cm



直交ニコル

0 1mm



直交ニコル

0 1mm

- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面